

わくわく地域連携教育だより

下関市教育委員会

創刊号

令和6年4月23日



新内俊允



白尾徳海



廣田恵子

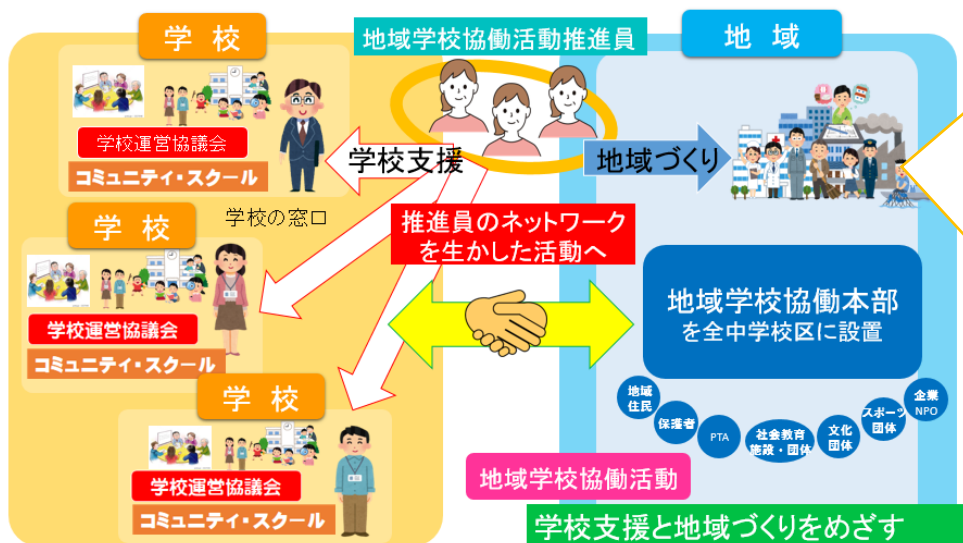
ごあいさつ

下関市教育委員会では、左記の3人を中心として、指導主事(13人)と社会教育主事(2人)の15人全員で地域連携教育を推進していきます。どうぞ、よろしくお願いいたします。

魅力ある学校づくり・地域づくりを目指して

まず、なぜ「わくわく地域連携教育だより」を発行することにしたのかご説明します。

下関市には、小・中・高合わせて66の学校(コミュニティ・スクール)、そして、中学校区毎に22の地域学校協働本部があります。どの「コミュニティ・スクール」「地域学校協働本部」もそれぞれの地域に根差した素敵な活動をたくさん展開されています。そんな下関市の魅力ある「学校づくり」「地域づくり」の実践をもっと下関市の皆さんに紹介したい!!!という思いから、「わくわく地域連携教育だより」を発行します。



令和4年度から、市内66校のコミュニティ・スクールで、「地域学校協働活動推進員」さんが、学校と地域をつなぐ橋渡し役を担ってくださっています。ありがとうございます！

次に、タイトルに「わくわく」という言葉を入れた理由です。下関市教育委員会では、子どもも大人も「わくわく」するような教育を目指しています。下関市の教育理念は、「夢への挑戦 生き抜く力 胸に誇りと志 学びが好きな子ども 学びの街・下関」であり、その実現のためには、「わくわく」する心の躍動が欠かせません。「コミュニティ・スクール」(学校教育)と「地域学校協働活動」(社会教育)を一体的に推進していくことで、子どもも大人も「わくわく」するような教育を目指します。

わくわく地域連携教育だより

生涯学習課のHPにアップしていきます



下関市地域連携教育のキーワード！！！！

「参加」＋「参画」

下関市地域連携教育におけるキーワードを一言で言うのであれば、「参加」＋「参画」です。昨年12月に実施したアンケート結果（下図参照）によると、子どもたちは、地域に居心地のよさや愛着を感じ、将来地域を元気にしたいという非常にポジティブな感情を抱いている一方で、地域の役に立っていると感じている子どもたちが半数程度に留まっていることが明らかになりました。勿論、子どもたちは地域の役に立つための存在ではありませんが、子どもたちが地域の一員として当事者意識をもって生きていくことは、将来、地域社会の担い手となる上で重要です。

学校・家庭・地域が連携協働し、子どもたちが地域の一員としての「当事者」となり輝く場所を創出することで、子どもたちの「自己肯定感」を高めていきましょう！

あなたと、あなたの住む地域・保護者・学校について見つめるアンケート

回答者数(市内の小5・6年生～中3生) 7,126人 回答率75%

問	質問内容	肯定的回答
1	あなたにとって、地域はホッとできる場所、居心地のよい場所になっている	90.7%
6	あなたは、地域の大人が自分たちのために協力して頑張ってくれる姿を見かける	87.5%
11	あなたは、地域の将来を自分たちで元気にしたいと思う	83.0%
8	あなたは、自分が地域の役に立っていると感じる	48.5%

「地域とともにある学校づくり」に向けて

「地域とともにある学校づくり」で重要なのは、地域の方々と子どもたちをいかにつなぐかということです。地域の方々の顔写真を構内に掲示して紹介してある学校もあります。ちょっとした工夫により、子どもたちが地域の方々を身近に感じることができます。



掲載されている方々の一例です。

- PTA 会長 (小・中)
- 民生児童委員
- 学校運営協議会委員
- 読み聞かせの方々
- 地域学校協働活動推進員
- 公民館職員
- 社会福祉協議会委員
- 育成協議会委員
- まちづくり協議会委員
- 園長先生

ご意見・ご感想を募集中です

shinnai.toshimasa@city.shimonoseki.yamaguchi.jp